広報 中部の森林（もり）

私の森語り「木曽路はすべて山の中、そこに長く息づく人々の暮らし、そして何より笑顔を大切にしたい」
一般社団法人木曽人 理事長 山田 弘

写真：天生国有林木道補修資材の歩荷
（飛騨署グリーンサポートスタッフ（天生）撮影）

特集
・夏のお薦め国有林

シリーズ
・各地からの便り、森林官からの便り、私の森語り、中部の保護林、秘蔵写真・今は昔の林業

国民の森林・国有林
林野庁中部森林管理局
2024/No.245

レクリエーションの森へ行ってみよう ～夏のお薦め国有林～

林野庁では、広く森林に親しんでいただけるよう森林浴や自然観察等に適した国有林を「レクリエーションの森」として選定しています。この中で、特に景観の優れた場所を「日本美しの森 お薦め国有林」としています。今回これらの中から、夏にお薦めの六箇所を紹介します。

高山植物の女王 コマクサ

～神秘的な川の色に誘われて～ 阿寺（あてら）風致探勝林（長野県大桑村）

「阿寺ブルー」と呼ばれる神秘的な色が続く阿寺渓谷

降り注ぐ陽光が川底の石に反射して生み出される神秘的な色合いは「阿寺ブルー」と呼ばれ、訪れる人を魅了します。エメラルドグリーンが深みを増すいくつもの「淵」の透明度はその深さを忘れるほどです。渓谷には遊歩道が整備され、その途中にある吊り橋からも渓谷美を楽しむことができます。【木曽森林管理署南木曽支署】

～森林浴発祥の地～ 赤沢自然休養林（長野県上松（あげまつ）町）

森林浴発祥の地として知られ、三〇〇年を超えるヒノキの大樹をめぐる八つの散策コースが設定されています。渓流沿いには、車椅子でも散策可能なバリアフリーのコースもあります。また、森林鉄道に乗車することもでき、夏には森林と渓流からの涼やかな風と景色を楽しむこともできます。【木曽森林管理署】

赤沢自然休養林内の散策コースと森林鉄道

～ゴンドラで行く高層湿原～ 栂池（つがいけ）湿原風致探勝林（長野県小谷（おたり）村・白馬（はくば）村）

ニッコウキスゲとワタスゲの咲く栂池湿原

ゴンドラとロープウェーを乗り継いで降り立つと、標高一、九〇〇メートルに位置する国内有数の高層湿原が広がります。園内には約五・五キロメートルの遊歩道が整備されており、雄大な北アルプスを背景に咲く高山植物を眺めながら気軽にトレッキングを楽しむことができます。【中信森林管理署】

～氷河が作った千畳敷カールへ～ 駒ケ岳風致探勝林（長野県駒ケ根市・宮田村）

ロープウェーに乗り一気に標高二、六〇〇メートルまで登ると、目の前に千畳敷カールが広がります。夏にはチングルマやコバイケイソウなど多くの高山植物が咲くお花畑となります。カール内は四十～五十分で一周することができます。稜線まで足を延ばすと、曇った日にはライチョウに出会えるかもしれません。【南信森林管理署】

青空とのコントラストが美しい千畳敷カール

～高層湿原で巨木に出会う～ 天生自然観察教育林（岐阜県飛騨市）

湿原の散策者を出迎えるように立つカツラの巨木群

標高一、四〇〇メートルに広がる面積約三ヘクタールの天生湿原は、希少なホロムイソウが自生するほか、八月にはシラヒゲソウやエゾリンドウなどが咲きます。付近を通る歩道には「カツラ門」と呼ばれるカツラの巨木群が目を楽しませてくれるほか、ブナの巨木も見られます。【飛騨森林管理署】

※表紙及び三ページ関連記事

～高層湿原の風に涼を感じる～ 湯の丸・高峰自然休養林（長野県東御市・小諸市）

標高二、〇〇〇メートルに位置する池の平湿原は、浅間山の噴火によって形成されました。この周辺は太平洋気候と日本海気候が入り混じる地帯のため、低山の植物から高山帯の植物まで多くの種類の花が咲く「花高原」として知られています。また、湿原内の鏡池へは、池の平駐車場からゆっくり歩いて十五分（約九〇〇メートル）で到着できます。【東信森林管理署】

池の平湿原内にある鏡池

安全で楽しく過ごすために

ライチョウに出会った際はそっと見守ってください

・森林散策などは、自己責任が原則となります。お出かけの際には、歩きやすい服装や靴を身に着け、天候などに十分注意しましょう。

・樹木を傷つけたり、植物を持ち出したりしないようにしましょう。

中部局管内のお薦め国有林はこちら↓

植生維持と回復を目指し、二つの湿原に獣害対策の電気柵を設置

【飛騨森林管理署】

五月二十日、飛騨市河合町の天生国有林内に所在する天生湿原において、獣害対策用の電気柵設置作業を、飛騨市及び天生県立自然公園協議会と共同して実施しました。

天生湿原は標高約一、四〇〇メートルに広がる約三ヘクタールの高層湿原で、湿原の周囲はレクリエーションの森「天生自然観察教育林」に設定しています。ミズバショウやニッコウキスゲなど、湿原を代表する植物が春から初秋にかけて観察できることに加え、世界遺産白川郷に近いことから、近年、訪れる方が増えています。一方、最近はイノシシによる掘り返しなどが目立つことから、その対策として、毎年この時期に電気柵を設置し被害の軽減を図っています。

天生湿原で雨の中設置作業を行う参加者

午前中は雨が降る生憎の天候でしたが、参加者は濡れて滑りやすくなった斜面で足元に注意しながら懸命に作業に取り組んでいました。午後には天候も回復、太陽に照らされ鮮やかさを増した新緑と、見頃を迎えたミズバショウに囲まれる中で作業は順調に進み、ほぼ予定どおり設置作業が完了しました。

また、六月九日には高山市荘川町の山中山国有林の山中峠（標高一、三七五メートル）付近に広がる約二ヘクタールの湿原においても、高山市及び地域の有志や岐阜大学の学生等とともに電気柵の設置作業を行いました。

ここのミズバショウは、自生地としては日本における分布の南限にあたり、県の天然記念物にも指定されていますが、天生湿原と同様にイノシシやニホンジカによる湿地の掘り返しや採食の被害が拡大したため、十年ほど前から関係者が協力して毎年電気柵を設置しています。

山中峠の湿原で設置作業を行う学生と地元有志

また、この箇所は岐阜大学応用生物科学部の安藤准教授を中心に、被害を受けたミズバショウ群生地の回復に向けた観察と、人工移植の研究が続けられており、作業終了後は、大学生とともに移植したミズバショウの観察を行いました。

安藤准教授から、地元小学生が種から育て、当地に移植したミズバショウの開花が今年初めて確認されたとの報告もあり、取り組みの成果を目にみえる形で得ることができました。

当署では両湿原をはじめとして、希少植生などの保護に向けて、関係者と連携しながら取り組んでまいります。

作業時に見ごろを迎えた天生湿原のミズバショウ

御嶽山開山に向けた登山道整備を実施

【木曽森林管理署】

七月二日、長野県王滝村の御嶽山王滝口登山道において毎年恒例の登山道整備が行われました。

今年は二十回目となりますが、今回の整備は、王滝口から王滝頂上、剣ヶ峰までの入山規制緩和に向けて行われたものです。整備には地元企業や山の関係者からなる木曽御嶽奉仕会の会員をはじめ、県、村、当署職員など約九十名が参加し、汗を流しました。

剣ヶ峰付近での作業の様子

登山道入口にあたる田の原駐車場付近では、排水溝にたまった砂泥の除去作業や登山道脇にある笹や雑草の刈払いが、九合目から剣ヶ峰にかけては、登山道脇の安全ロープの張り直しや案内看板の設置等が行われました。あわせて、登山者の安全確保のために、王滝村の非常用無線の試験も行われました。

参加者からは、「御嶽山に来たのは今回が初めてで、景色もよく楽しみながら清掃や整備をすることができた。」などの声が聞かれました。

また、同日に、木曽町三岳の黒沢口登山道においても、約四十名が参加し、同様の登山道整備が行われました。

御嶽山は日本百名山の一つとなっており、独立峰としては富士山に次ぐ高さ（三、〇六七メートル）です。皆さんもぜひ足を運んでみてはいかがでしょうか。

なお、登山の際には、最新の火山観測データや立入規制情報等を確認するようにしてください。

八島ヶ原湿原で外来植物ヒメジョオンを除去

【南信森林管理署】

梅雨空となった七月十日、「八島高原を美しくする会」の主催による、外来植物ヒメジョオンの除去活動が、下諏訪町内東俣国有林の八島ヶ原湿原で行われ、下諏訪町や長野県関係者、当署職員など、総勢約二十名が参加しました。

ヒメジョオンは繁殖力が非常に強く、在来植物の生育に影響を与えることが危惧されており、外来生物法の要注意外来生物に指定されています。除去作業に先立ち、下諏訪町よりヒメジョオンの花の構造や除去の際の注意点などについて説明を受けた後、湿原の木道沿いや駐車場周辺で成長したヒメジョオンを除去しました。

参加者は、花やつぼみの状態のヒメジョオンを見つけると、はさみ等で根本付近から切断し、拡散しないよう注意して袋に入れていきました。回収したヒメジョオンは堆肥化し利用されます。

事務局の下諏訪町によると、毎年の除去活動により、以前よりヒメジョオンの数は少なくなってきたとのことですが、完全に除去することの難しさを実感しました。

八島ヶ原湿原の貴重な自然を守るためにも、今後とも関係者と連携し、外来植物除去活動に取り組んでまいります。

八島ヶ原湿原でのヒメジョオン除去活動に参加する関係者

ヒノキ間伐展示林で検討を行う森林文化アカデミーの学生達（小川長洞国有林）

岐阜県立森林文化アカデミーの国有林実習で展示林等を案内

【森林技術・支援センター、岐阜森林管理署】

六月二十五日、岐阜県立森林文化アカデミーエンジニア科二年の、学生十五名が、岐阜署管内の乗政（のりまさ）及び小川長洞（おがわながほら）国有林で現地実習を行いました。

樹齢が一〇〇年を超える乗政国有林の「ヒノキ長伐期施業林」では、八年前の平成二十八年に間伐が実施されており、学生達は間伐後の地表の植生や枝の広がり方などを確認しながら今後の施業方法を検討し、「部分的に立木密度の高い箇所があるので間伐を行う」「一三〇年生まで待って皆伐を行う。その後の植栽は、木材需給も考慮してヒノキ以外の植栽樹種も検討する」等の実践的な意見が出されました。

異なる間伐率の試験地が配置された小川長洞国有林の「ヒノキ間伐展示林」では、間伐の効果やプロット毎の成長の優劣や木の混み具合、今後の伐採方法等について、専攻分野に応じた意見交換を行いました。その後、当センターから、伐採した木の年輪調査による間伐後の成長の違いに関する研究成果や、現在は木が混み合う状態になっているため間伐が必要になることなど、今後の施業方針を説明しました。最後に、民有林ではあまり見ることができないコウヤマキ等の温帯性針葉樹の天然林を見学し、実習を終えました。

今後も学校等からの要請に応じ、技術支援や情報提供を行ってまいります。

ヒノキ長伐期施業林の見学状況（乗政国有林）

千曲市立五加小学校五年生が端材クラフトとイス作りを体験

【技術普及課】

七月八日、長野県千曲市の「大池自然の家」において、同市立五加小学校五年生の児童六十名を対象に、木工体験を実施しました。これは、体験学習授業の一環として、野外活動で森について学び、木材と触れ合う機会を設けたいという小学校からの要望に応え、中部森林管理局が協力して実施したものです。

はじめに、国有林や国産材利用について説明を行い、その後、クラスごとに「端材クラフト」と「イス作り」を交替で実施しました。クラフトでは、「森づくりの途中で伐採されて捨てられる木材を、みんなが使うことで、キャンプの思い出になる作品に変身させよう」と伝えると、思い思いに製作を楽しんでいました。

イス作りでは、材料が国産のスギ材であることを説明し、「なぜ伐った後にまた木を植える必要があるのか?」と問いかけたところ、「森林は生き物のすみかだから」、「山が崩れることを防ぐため」といった声が次々にあがり、森林の多面的機能への理解が子どもたちに浸透していることを実感しました。

限られた時間の中で子どもたちは、板が浮かないよう小さな手で押さえながらネジを一生懸命に締め、完成後は嬉しそうに座り心地を確かめていました。

今後も、イベントや森林教室、木工製作などの様々な機会を捉えて、多くの方々に森林づくりや木材利用の大切さを普及するためにサポートしてまいります。

キャンプの思い出となる作品を製作する子どもたち

林業、木材産業の歴史を学ぶ

【名古屋事務所】

七月九日、事務所に隣接する名古屋学院大学で社会学を学ぶ二年生十二名が、当所併設の「熱田白鳥の歴史館」に来館しました。

はじめに、大学の白鳥キャンパスを含む一帯は江戸時代から貯木場であったことを説明した後、木曽地域で伐採された木材が木曽川を使って運び出される様子などのビデオ上映を行いました。

学生からは、水中貯木を行うメリット、木曽で林業が発展した理由、木造建築の耐久性等、予定時間を超えて熱心に多くの質問が出され、林業や木材産業に対する関心の深さがうかがえました。

白鳥貯木場について説明を受ける学生

また、七月十二日には、（公財）徳川黎明会に所属する徳川林政史研究所の職員と研究生が歴史館を訪れました。木材取引発祥の地とされる白鳥貯木場は尾張徳川藩と関わりが深く、同藩藩領であった木曽地域の林業や、名古屋城築城の際に造られた堀川などの歴史とあわせて当所から説明を受けた後、堀川と貯木場を繋ぐ中水門、太夫堀を見学しました。

中水門を見学する徳川林政史研究所の研究生

初代大ヒノキ歩道甦る
～見学コース整備完成！～

【東濃森林管理署】

七月十一日、当署管内の加子母裏木曽国有林（中津川市加子母）において、「NPOつけち」「裏木曽古事の森育成協議会」の呼びかけによる初代大ヒノキ歩道整備ボランティア活動が行われました。

当日は雨模様となりましたが、恵那県事務所、中津川市、まちづくり協議会、区長会などから総勢三十五名が参集し作業を行いました。

新しい説明看板を設置する様子

見学コースの歩道は六十年以上前に作られ、総延長一、一〇〇メートルに及びますが、幸いにも歩道自体に大きな損傷等は見られず、作業は主にコース案内看板の設置と、朽ちた丸太橋の架け替え、転石の除去となりました。参加者は六班に分かれ、各担当区域で手際よく作業し、午前中に整備を終えることができました。

丸太橋架け替えの様子

午後は当署の会議室へ場所を移し、初代大ヒノキに係る今昔物語、大ヒノキまでの道中の見どころや、この地域の森林・林業の歴史に関する解説などを行い、参加者の皆さまに、中津川市加子母・付知地区の新たな魅力の発信者となっていただくようお願いし、学習会を終えました。

参加者からは「地元にいながら、こんな奥山へは初めて入った。素晴らしい経験ができた」「知らなかったことが沢山学べた」など多くの感想を聞くことができました。

今回整備した歩道は、八月四日に中津川市、恵那農林事務所、東濃森林管理署が主催して開催される山の日イベント「なかつがわ山の日サンデー」を皮切りに、今後多くの皆さまに利用していただけるものと期待しています。

会議室での学習会の様子

東濃森林管理署の初代大ヒノキ（切り株）と二代目大ヒノキ

〈初代大ヒノキ〉

江戸時代後期、焼失した江戸城再建のために幕府から派遣された役人により「ご神木」とされた木曽山随一の大檜が由来とされています。昭和9年の室戸台風で折れてしまい、昭和29年に学術参考のため伐採されました。切り株の直径は約2.2m、断面は畳3畳ほどの広さがあります。

〈二代目大ヒノキ〉

初代大ヒノキと肩をならべるような巨木は簡単には見つからず、昭和56年にようやく発見されました。樹齢は推定1,000年、幹回り4.84m、高さ26mとされています。発見されたのは、偶然にも、初代大ヒノキと谷をはさんで向かい側のほぼ同じ標高の場所でした。